

第 6 学年 特別活動指導案

題材「ステップアップ行事リレー！」

＜研究テーマ＞

よりよい集団の実現を目指した

自主的、実践的な態度を育てる学級活動の工夫

— 学校行事のふり返しにおける

リーダーチャートやポートフォリオ的教材を活用した

ふり返りの工夫を通して —

令和元年 12 月 6 日（金），12 月 12 日（木）

うるま市立 兼原小学校 6 年 2 組（男子 18 人，女子 13 人）

授業者 山城 修司

担当主事 上原 進

（沖縄県立総合教育センター）

第6学年 学級活動指導案

令和元年12月 6日(金) 5校時
 12月12日(木) 5校時
 うるま市立兼原小学校6年2組31人
 授業者 山城 修司 印

1 題材「ステップアップ!行事リレー!」

内容「(3)ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」

2 題材について

(1) 児童観

本学級では、年度当初に、教師の学級経営方針と児童の「つくりたい学級」をもとに作成した「学級づくりアンケート」と「学級づくりレーダーチャート」を用いて学級目標の設定を行った。そして、毎月の月末に再度アンケート調査を実施し、その月のふり返りと翌月の見通しをもつ活動を行ってきた。そのため、レーダーチャートの見方や活用については、ほとんどの児童が理解している。

1学期に実施した「学級づくりアンケート」の結果は、以下の通りとなった。

(表1)「学級づくりアンケート調査」6年2組男子18名,女子13名 6月28日実施(1学期まとめ)

設 問 ※目標値=80%		5/29 実施	6/28 実施	目標値 比較	5月→6月 比較
1	目標をもって学習や生活に取り組む。	69%	72%	▼ 8	△ 3
2	時間のけじめをつけて行動することができる。	78%	79%	▼ 1	△ 1
3	学習のきまりを守って活動することができる。	78%	79%	▼ 1	△ 1
4	自分の活動をふり返ることができる。	66%	75%	▼ 5	△ 9
5	授業中に、先生や友達の話をよく聞くことができる。	78%	79%	▼ 1	△ 1
6	授業中に、自分の考えや意見を伝えることができる。	63%	65%	▼15	△ 2
7	グループやペアでの話し合いに進んで参加することができる。	77%	79%	▼ 1	△ 2
8	友達のよいところを見つけることができる。	81%	75%	▼ 5	▼ 6
9	自分には、よいところがある。	75%	71%	▼ 9	▼ 4
10	新しいことに挑戦しようとしている。	78%	77%	▼ 3	▼ 1
11	楽しく学級生活を送るために、がんばっていることがある。	72%	75%	▼ 5	△ 3
12	相手の気持ちを考えて行動することができる。	79%	72%	▼ 8	▼ 7
13	自分から進んであいさつをすることができる。	68%	72%	▼ 8	△ 4
14	積極的に運動している。	78%	72%	▼ 8	▼ 6
15	給食を完食することができる。	87%	78%	▼ 2	▼ 9
16	正しい生活リズムで過ごすことができる。	70%	71%	▼ 9	△ 1

一学期は、「学級づくりアンケート」をもとに学級づくりを行っており、その中で児童から挙がった声をもとに話し合い、学年や学級レクなどの児童の自主的な活動の計画、実施につながった。こうした活動を通して、児童の中で協働的に活動することで学級を楽しくしていこうとする雰囲気が見られるようになってきた。また、一部では、この経験から2学期の学級役員に立候補し、学級を盛り上げたいと意欲をもつ児童も現れた。更に、5月と6月の比較を見てみると、16項目の内、10項目が向上しており、児童一人一人がふり返りをもとに課題解決を図った結果がだと考える。

(2) 題材設定の理由

これまでの学校行事の在り方を見てみると、行事間の時期のズレや内容の違いから、独立して単一的な活動となってしまう、終えた行事の反省を次の行事に生かすことが困難であった。そこで、本題材では、学校行事を貫く13項目の視点を設定し、それをもとにアンケートとレーダーチャートを活用することで、行事間を関連づけた発展的な活動の実現をねらいとしている。

本校は、9月の「運動会」を皮切りに、11月に「修学旅行」、12月に「学習発表会」と大きな行事が2学期に集中しており、児童にとっても自身や学級の変容を実感し易い機会だと考える。また、レーダーチャートは、全体を一つの目標として見たときに、どの要素が高く、どの要素が低いかを相対的に捉えることができるため、行事の反省を踏まえて総合的に高めるための見通しをもつことができる資料といえる。そのため、学校行事の発展的な活動の実現に効果的だと考える。更には、これまでの「学級づくりアンケート」及び「学級づくりレーダーチャート」を用いた実践から、児童の主体的な課題解決に効果的だと考え、本題材を設定する。

(3) 研究テーマとの関連

＜研究テーマ＞
 よりよい集団の実現を目指した
 自主的、実践的な態度を育てる学級活動の工夫
 — 学校行事のふり返しにおける活動の記録と自己評価を通して（第6学年） —

平成28年12月の中央教育審議会答申（第197号）では、今後の予測困難な社会的変化に対して、子ども達自身が主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮して、よりよい社会や人生の創り手となる力を身に付けさせることが重要と述べている。

また、日本の子ども達は、「自分の判断や行動がよりよい社会づくりにつながる」という意識や「自らの能力を引き出し、学習したことを生活や社会の中の課題解決に生かす」という意識が国際社会と比較して低いことを課題として述べている。

本研究では、学校生活における個人や集団の諸活動を単一的なものではなく、相互に関連づけたふり返しによる課題解決の活動を通して、「よりよい集団」つまり児童が「つくりたい学級」の実現に向けた自主的、実践的な態度の育成を目指している。そして、ふり返りの活動を継続的に行うことで、学習したことを生活や集団の課題解決に生かそうとする意識を醸成し、児童一人一人の判断や行動がよりよい学級づくりにつながっていることを体験的に理解させていきたい。

3 学級活動(3)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自己のよさを生かしながら、学級の課題解決に向けた実行可能な活動計画を設定することができている。	学級のよさや課題を認識し、課題解決に向けた話し合いや活動から自分に合った解決方法を意思決定することができる。	「つくりたい学級」の実現に向けて、見通しをもったり、ふり返ったりしながら活動を調整し、粘り強く活動しようとしている。

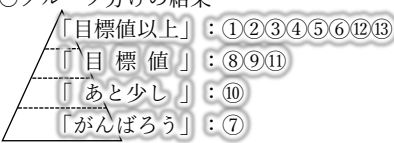
4 事前の指導と児童の活動

	週	月日,()時	○活動内容	【 】評価の観点,()評価の方法
事前指導	第一週目	11/11 月 (朝の会)	○ふり回りアンケート調査(1) (修学旅行)	
		11/11 月 (5校時) ー第1時ー	○レーダーチャートをもとに、学級全体のよさや課題を整理し、目標(つくりたい学級)を考える。	・資料をもとに学級のよさや課題を整理し、自分ごととして捉え、全体の目標を考える。 【思判表】(観察・記録)
		11/15 金 (6校時) ー第2時ー	○学級の目標(つくりたい学級)を軸に、各自の具体的な活動方法を検討し、活動計画①を立てる。	・学級の一員として自分にできることを考え、活動計画を立てることができる。 【知技】(観察・記録)
課題解決活動	第二週目	11/18 月 ー11/22 金 (隙間時間)	○活動計画①をもとに、活動・ふり回り・改善のサイクル的活動を行う。 (1日の活動計画)	・活動計画をもとに、「なりたい自分」を目指して、主体的に課題解決に取り組む。 【態度】(観察・記録)
			朝の会 前日の活動をもとに、今日の活動計画を調整する。	・その日の活動のふり回りをもとに、翌日の活動内容を調整することができる。 【知技】(観察・記録)
	第三週目	11/25 月 ～11/26 火 (隙間時間)	学年練習 休み時間等 活動計画をもとに、主体的・協働的に活動する。 (群読、歌、出し物など)	
			帰りの会 今日の活動をふり回り、明日の活動計画を調整する。	
		○11/22(金)ふり回りアンケート調査(2) (1週目を終えて)		
行事	第三週目	11/27 水	<学習発表会 児童鑑賞>	
課題解決活動		11/27 水 (5校時) ー第3時ー	○児童鑑賞をふり回り、保護者鑑賞に向けた具体的な活動計画②を立てる。 ※ふり回りアンケート調査(2)を活用。	・児童鑑賞をふり回り、活動内容を調整することができる。 【知技】(観察・記録)
		11/28 木 ～11/29 金 (隙間時間)	○活動計画②をもとに、活動・ふり回り・改善のサイクル的活動を行う。 ※上記の(1日の活動計画)と同様	・活動計画をもとに、「なりたい自分」を目指して、主体的に課題解決に取り組む。 【態度】(観察・記録)
				・活動のふり回りをもとに活動内容を調整することができる。 【知技】(観察・記録)
行事	第四週目	12/01 日	<学習発表会 保護者観覧>	
事後		12/03 火 (隙間時間)	○ふり回りアンケート調査(3) (学習発表会)	

(1) 本時のねらい

(2) 本時の観点別評価規準

(3) 展 開 (計画時間 40 分, 調整時間 5 分)

	活動の内容 ・ 発問	○予想される児童の反応	【 】評価 ◇留意点
導入 (3分)	1 「つくりたい学級」を確認する。 ・学習発表会に向けた取り組みの最初に立てた「つくりたい学級」を読みましょう。 2 めあての確認 ・全員でめあてを読みましょう。 学習発表会に向けた活動を通して「できたこと」をもとに、「つくれた学級」をまとめる。	○全員で唱和。 「すべてが目標値より高い パーフェクトヒューマンズ」	◇ワークシートの作成、配布。 ◇「めあて」は、休み時間の中で記入しておくよう声掛けをする。
展開 (2分)	3 レーダーチャートを分析する。 ＜つかむ＞ (1)ピラミッドチャートで分類。 ・レーダーチャートの項目を4段階のグループに分けてみましょう。(全体) ＜さぐる＞ (2)「できたこと」の要因を考える。 ・目標値や目標値以上まで高められた項目は、積極的に活動できたということだと思います。高められた要因はどんなものが考えられますか。(全体)	○グループ分けの結果 	◇ピラミッドチャートで整理する。
(10分)		「目標値の項目」(視点1) ①毎日、帰りの会でふり返って、明日の活動計画(目標)を決めていたから。 ②毎日、朝の会で確認することができた。休み時間にも確認していた。 ③自分のすることがハッキリしていた。決まっていた。 ④みんなも頑張っていた。好きな出し物に挑戦できた。 ⑤意識していた。お互いに声かけし合った。時計を見ながら行動できた。 ⑥休み時間にも出し物の練習をがんばることができた。 ⑫出し物の練習が楽しかったから。友達が教えてくれたから。 ⑬児童鑑賞のあとに話し合ったことを意識して活動することができた。 及び目標値以上の項目(視点1) ⑧普段から意識していたので、習慣づいていた。 ⑨出し物のメンバーと休み時間などにも練習して、教えあうことができた。 ⑪前日にふり返ったことを意識して活動すると、できなかったことができた。	
(5分)	4 「つくれた学級」をまとめる。 ＜まとめる＞ (1)キャッチコピーについて確認する。 ポイント：①そのよさや特徴を表現する ②短い言葉でまとめる 参考資料：①身近にあるキャッチコピー (2)グループ案を考える。 ・行事を通してつくれた学級をキャッチコピーで表しましょう。(グループ) ＜広げる＞ (3)グループで話し合ったことを共有する。 ・各グループでまとめたキャッチコピーを紹介してください。(全体)	※身近にあるキャッチコピー(例示) ・お笑い芸人(アンジャッシュ・池崎) ・ファミリーマート ・ローソン ・ロッテ ・ドトールコーヒーマシン ・ライオン ・ダイエー ・ニトリ ・旭化成 ○目標を意識できた「～～～ズ！」 ○成長できた6年2組！ ○一人一人が役割を意識できる ワンチーム2組！ (など)	◇パワーポイントで身近な事例を紹介し、イメージを持たせる。 ※一部のみ確認。残りは資料配布。 ◇ポジティブなキャッチコピーを考えさせる。 ◇困っているグループには、各項目がどんな場面で生じたかを想起させる。 ◇よりよい1つを選ぶのではなく、各グループ案から多角的に学級の成長を感じ取ることを重視する。
終末 (5分)	5 キャッチコピーでふり返る。 ・各グループで考えた学級のよさを表すキャッチコピーの中で、特に「いいな」と思うキャッチコピーを選んで、その理由を書きましょう。 ・選んだ理由には、キャッチコピーから伝わる雰囲気なども書いてください。(発表：個人→全体) 3分→2分	○「(グループ案)」は、学習発表会に向けて、群読や歌、出し物の練習を学級のみんながひとつになって頑張れたことをイメージできる。 ○学習発表会の練習や準備を通して、学級のチームワークが高まったと思うので、「(グループ案)」を選びました。(など)	◇理由を書く際は、キャッチコピーから「伝わること」や「イメージふくらむ背景」などもふくめて書けるよう声掛けをする。 【知技】キャッチコピーの内容と自分たちができるようになったことを関連づけて選び、理由を書くことができる。 <ワークシート・発表>

6 本時の指導（5/5）

(1) 本時のねらい

目標値に満たない項目をもとに、卒業に向けた「なりたい自分」を設定し、その実現や「つくりたい学級」の実現に向けて見通しをもつことができる。

(2) 本時の観点別評価規準

評価の観点	①思考・判断・表現 ②主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①学習発表会に向けた取り組みを通して、目標値に満たない項目を整理して、卒業に向けた「なりたい自分」（目標）を設定し、短冊に書くことができる。 ②「なりたい自分」に向けた、今後の学校生活の過ごし方等の見通しをもつことができる。
評価方法	授業内：発表・観察 授業後：短冊・ワークシート

(3) 展 開（計画時間40分、調整時間5分）

	活動の内容 ・ 発問	○予想される児童の反応	【】評価 <>方法 ◇留意点
導入 (3分)	1 前時の学習を想起する。 ・前の時間では、学習発表会に向けた活動を通して成長できた学級を表すキャッチコピーを考えました。 2 めあての確認 ・全員でめあてを読みましょう。 これまでの活動のよさや課題をもとに、卒業に向けた「なりたい自分」と「つくりたい学級」を考える。		◇ワークシートの作成、配布。 ◇キャッチコピーを掲示。 ◇「めあて」は、休み時間の中で記入しておくよう声掛けをする。
展開 (2分) (10分) (10分) (3分) (7分)	3 レーダーチャートを分析する。 <つかむ> (1)前時の活動を振り返る。 ・前回、ふり分けたピラミッドチャートを確認しましょう。 <さぐる> (2)「できなかった」項目の原因を考える。 ・もう少しで達成できそうな項目と今後とも努力が必要な項目は、それぞれどんな原因が考えられますか。（全体） 4 卒業に向けた成長の見通しをもつ。 <見つける> (1)「なりたい自分」を考える。 ・これまで出し合ったことをもとに、卒業に向けて、自分自身が特に頑張ろうと思うことを短冊に書きましょう。（個人→グループ）7分→3分 <広げる> (2)お互いの「なりたい自分」を共有する。 ・各自の書いた短冊を黒板に貼ってください。 (3)「つくりたい学級」を考える。 ・一人一人の「なりたい自分」をもとに「つくりたい学級」を考えましょう。（全体）	○グループ分けの結果 「もう少しの項目」（視点2） ⑩全体より、自分を優先して少しふざけてしまった。集合時間に遅れてしまった。 「努力が必要な項目」（視点3） ⑦もともと苦手で、できなかった。緊張する。不安。 （なぜ？）間違えたときに笑われる。バカにされる。 （そもそも）必要と思っていない。誰かがやってくれる。 （一部）がんばったけど、学級全体として上がらなかった。 ○「勇気を出して、発表できる自分」 ○「相手を見て、話や発表を聞ける自分」 ○「常に目標をもって活動する自分」（など） イメージ 	◇「学級＝個人の集合体」であることを確認し、個人を伸ばすことで、学級全体の伸長につながることを確認する。 ◇短冊を用意、配布する。 ◇「～ができる自分」や「～する自分」などの例を挙げ、見通しを持たせる。 ◇前時で挙げた「よい点」をもとに考えてもよいことを確認する。 【思判表】本時(課題)や前時(よさ)をもとに「なりたい自分」を考えることができる。 <短冊> ◇各自の短冊を黒板に並べ、「学級＝個人の集合体」のイメージを強調する。
終末 (5分)	5 取り組み全体をまとめる。 ・今日の活動の中で立てた「なりたい自分」をもとに、これからの学校生活の過ごし方について、考えたことや感じたこと、意気込みなどを書きましょう。（発表：個人→全体）3分→2分	○「～ができる自分」を目指して、これからは・・・頑張ります。 ○今日の学習で「～ができる自分」を目標として立てたので、それが実現できるように意識して過ごします。（など）	◇「～します。」という宣言するように書くことを確認する。 【態度】本時の活動を振り返り、「なりたい自分」をもとに、今後の学校生活の見通しを持つことができる。 <ワークシート・短冊・発表>

7 事後の指導と児童の活動

	月日,()時	○活動内容	【】評価の観点,()評価の方法
事後	12/13 金 (朝の会)	○ステップアップ行事リレーの活動を終えてのアンケート調査。	
	各月の月末	○「学級づくりアンケート」の実施と「学級づくりレーダーチャート」に基づいたふり返りと生活の見直し、調整。	

<参考資料>

1 ①板書計画 (4/5)

12/6(金)ステップアップ行事リレー！
めあて：学習発表会に向けた活動を通して「できたこと」をもとに、学級のキャッチコピーを考える。

「できるようになったこと」を整理しよう！！

まとめる → 広げる
6年2組のキャッチコピー

つかむ ○学習発表会に向けた活動

さぐる

各グループ案

②板書計画 (5/5)

12/12(木)ステップアップ行事リレー！
めあて：学習発表会に向けた活動を通して「できたこと」をもとに、学級のキャッチコピーを考える。

決める → 広げる

つくりたい学級「
」

つかむ ○学習発表会に向けた活動

さぐる

「原因」をさぐる

2 「学校行事ふり回りアンケート調査 (結果)」 6年2組男子18名,女子13名 (計31名)

9/25～12/3

項 目	※目標値 80%	運動会 (9/25 調査)	目標値 比較	修学旅行 (11/11 調査)	目標値 比較	運動会 比較	学習発表会 (12/3 調査)	目標値 比較	修 旅 比較
1	ふり回りをもとに目標を立てることができた。	74%	▼ 6	73%	▼ 7	▼ 1	91%	△11	△18
2	目標を意識して活動することができた。	67%	▼13	74%	▼ 6	△ 7	83%	△ 3	△ 9
3	自分の役割と仕事を理解している。	87%	△ 7	89%	△ 9	△ 2	89%	△ 9	—
4	自分の役割と仕事に責任をもって活動できた。	85%	△ 5	82%	△ 2	▼ 3	85%	△ 5	△ 3
5	時間やきまりを守って活動できた。	82%	△ 2	85%	△ 5	△ 3	91%	△11	△ 6
6	練習や準備に積極的に関わることができた。	81%	△ 1	86%	△ 6	△ 5	85%	△ 5	▼ 1
7	自分の考えを進んで伝えることができた。	62%	▼18	69%	▼11	△ 7	72%	▼ 8	△ 3
8	相手の意見を真剣に聞くことができた。	80%	—	81%	△ 1	△ 1	81%	△ 1	—
9	誰とでも協力して活動することができた。	69%	▼11	86%	△ 6	△17	81%	△ 1	▼ 5
10	自分だけでなく、全体としての判断ができた。	73%	▼ 7	76%	▼ 4	△ 3	76%	▼ 4	—
11	活動の仕方を工夫することができた。	63%	▼17	75%	▼ 5	△12	81%	△ 1	△ 6
12	最後まであきらめずに取り組むことができた。	67%	▼13	75%	▼ 5	△ 8	84%	△ 4	△ 9
13	学んだことを活動に生かすことができた。	81%	△ 1	83%	△ 3	△ 2	87%	△ 7	△ 4